

# 「福島大学学生教育支援基金」平成30年度 成果報告

福島大学学生教育支援基金は、地域の再生復興を見据えながら、グローバル化が進展する社会で活躍できる「強い人材」の育成を目指し、学生が存分に勉学に励み、国際性を育み、社会的実践力を身につけることができるような教育環境を整備することを目的とし、学生支援や国際交流、学生教育環境整備事業等を支援します。平成30年度は、同基金による支援事業として、留学補助等の4事業を採択しました。本紙では、事業の内容をご案内するとともに、その成果をご報告いたします。ご寄附いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

## 学生教育支援基金支援事業「福島大学と海外協定校による双方向交流事業」

国際交流センターでは、本基金を利用し、学生のグローバル意識啓発及びグローバル人材育成を目的として、交換留学派遣・受入、短期派遣プログラムの企画・実施を行ってきました。

交換留学派遣事業においては、米国・ニューヨーク州立アルバニー校、ドイツ・ルール大学ポーフム校、韓国・韓国外国語大学等の協定校へ28名を派遣しました。短期派遣プログラムでは、韓国・中央大学短期語学（韓国語）研修、中国・華東師範大学短期語学（中国語）研修、オーストラリア・クイーンズランド大学短期語学（英語）研修、トルコ・アンカラ大学短期プログラム、英国・ウィニペグ大学短期プログラム、ベトナム・日越大学短期プログラムを実施しました。語学学習のみならず、インターン体験や、現地の学生との交流を行い、参加学生にとっては、貴重な体験となりました。短期研修への参加経験が、1年の交換留学や帰国後の語学学習継続のためのモチベーションにもつながっています。

受入事業においては、前期は協定校より新たに9名の交換留学生を受け入れました。後期は、前期からの学生に加えて、23名の交換留学生を受け入れました。交換留学生は、本学の日本人学生やバディとの交流、地域のお祭りや文化体験に積極的に参加したほか、外国人留学生研修旅行では、相馬市の家庭でホームステイ体験をしました。8月には、福島県内各地を視察して、原発、復興状況、産業について学習するFukushima Ambassadors Programに参加しました。本基金での支援を含め、学内支援や、本学学生、地域の方々との交流を通じて、充実した留学生活を送ることができました。



米国・オザークス大学への交換留学



韓国・中央大学短期語学研修



留学生研修旅行 相馬でのホームステイ体験最終日

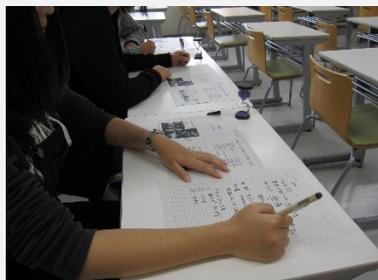
## 学生サポーターの活用と展開

アクセシビリティ支援室は、様々な障がいや疾患のある学生が、障がいのない学生と同様に充実した大学生活を送れるよう、修学支援のための窓口として平成27年に設置されました。障がいのある学生への支援に加え、平成29年度からは障がい学生を支援する「学生サポーター」を養成・派遣しています。

学生サポーターの活動として、ノートテイクの基本である手書きノートテイクの養成を行いました。限られた情報量の中でいかに正しく授業の内容を伝えるか、さらに、聴覚障がいのある学生に「授業に参加している」感覚を持ってもらうにはどうしたらよいか、受講生それぞれが試行錯誤しながら練習していました。

冬期間は、昨年に引き続き雪かき協力隊の活動も行われました。今シーズンは降雪量が非常に少なく、サポーターが活躍する機会も限られたものとなりましたが、除雪が必要な区域は昨年よりも大幅に広がりました。30名を越える学生の登録があり、危険箇所の確認、除雪、融雪剤散布ときめの細かい活動が可能となりました。次年度も引き続き活動を継続してゆく予定です。

また、障がいのある学生へ直接の支援を行うとともに、本学の構成員一人一人が障がいに対しての知識や支援を学ぶことも重要です。学内の総合防災訓練では、障がい者役・救助者役を募り、学生にも参加してもらう試みが行われました。救助役ではない一般の学生が救助を行うという予定外の嬉しいできごともあり、本学の学生が災害と障がいについて考えるきっかけのひとつになったのではないかと思います。



ノートテイク研修会の様子



雪かき協力隊の活動



防災訓練での救助訓練の様子

## 多文化体験による国際人育成プログラムの創出～観光を通して～

世界各地であるテーマについての調査やパフォーマンスを実施し、その活動を通じて学生に多様な価値観に対する理解を深めてもらうことを目的とする私たちのプログラムも2年目を迎えました。今回のプログラムでは、経済経営学類のドイツ、ロシア、中国、韓国、東南アジア、米国などの国、地域に関わる授業において、担当者と受講生が共に対象地域に渡航し、そこで当該地域の観光「観」や観光地としての福島などに関するアンケート調査を実施し、他方で日本の観光にもかかわる伝統文化を実演つきで紹介しました。

韓国ではソウルグローバル文化体験センターを訪問し、観光事業への取り組みや異文化体験プログラムの企画などについて学びました。

ロシアでは極東交通大学の大学祭で福島の観光スポットについて紹介を行い、折り紙や日本の昔の遊びを実演しました。

中国では「信达証券」などの現地企業を視察したほか、香港と深圳でキャッシュレス化、シェアリングエコノミーの現状についても調査を行いました。

タイでは現地の旅行者をはじめ NGO や企業でインタビュー調査を行いました。

ドイツでは様々な地方の観光事情を視察し、その土地の文化（宗教、歴史、建築術）を体験しました。無線 LAN の無料使用が可能な地域の多さ、ホテル、レストラン等のスタッフの高度な英語能力など、観光サービスの充実を実感しました。

そしてこれらの活動と並行して、上記の観光に関わるアンケート調査を各地域で実施、帰国後に集計・分析を行い、その結果を福島市内の多目的施設「アオウゼ」における「ワールドツアー with Fukudai」で発表しました。各国料理の試食や観光に関するクイズ・スタンプラリー、各国語の歌の発表などもある、有意義かつ楽しいイベントとなりました。

学生たちは観光に関する様々な調査やパフォーマンスを通じて世界の多様性を体感し、同時に福島の復興について思索し、議論することができました。皆様のご支援のおかげをもちまして、実りあるプログラムを実施できました。深く御礼申し上げます。



タイ・シーナカリン大学の皆さんと



ワールドツアー「小さな世界」6か国語合唱



中国・信达証券視察

## 「学習コミュニティ」の形成に向けた学びのナビゲータープロジェクト

昨今、大学教育における授業支援や学習支援の領域で、先輩学生が支援者となって後輩学生をサポートする事例が増えてきました。福島大学では総合教育研究センター（教務課）と附属図書館（学術情報課）の連携のもと、学生の学生による学生のための全学的な教育・学習支援活動「学びのナビゲータープロジェクト」が推進されています。学びのナビゲーターと呼ばれる学生スタッフは、教員による指導と職員によるフォローのもと、福大生の主体的学習を盛り上げる取組みを企画・実施しています。

具体的な活動としては、①アカデミック・スキルズ・サポート、②出前授業、③自己学習プログラムの開発、④twitterでの学習情報の発信、⑤対外的な活動発表、⑥他大学の学習支援組織との合同研修などを展開しています。レポートライティングやプレゼンテーションといったスキル獲得に向けた支援（①）や、それらの内容にもとづく初年次教育科目でのワークショップを実施しながら（②）、学びのナビゲーター自身もアカデミックスキルの獲得に向けて主体的に学習するプログラムを開発・実践しています（③）。他にも、図書館総合展等の機会に積極的に対外的な活動報告を行い（⑤）、東北大学や北海道大学で活動する学習支援者とともにスキルアップに向けた研修に取組むなど（⑥）、学びのナビゲーターの学生自身の成長にも資する活動が展開されています。

学生にとっての学習の拠点である附属図書館ラーニングコモンズにおいて、“学生目線”のメリットを活かした、全学的な学習支援の旗振り役としての活躍が学びのナビゲーターには期待されています。



研修開発の様子



図書展示企画



図書館総合展での発表